

頑張る

農業法人

「地域があつて法人がある。法人は従業員や地域を含めたみんなのもの」と語るのは、八幡市野尻地区の農業法人「株式会社 渋谷農園」代表取締役の渋谷昌樹さん(31)。ブランド産品「九条ねぎ」を中心に都市近郊地で鮮度を売りとした軟弱野菜を生産し、一層の規模拡大を目指している。

昌樹さんの祖父母は1・5畝で米やナスなどの野菜を作っていた。父親は別業種の会社を営みながら農業を手伝っていたが、祖父母が亡くなると会社経営をやめて本格就農。徐々に耕作面積を拡大し、「九条ねぎ」などの品目を増やしていった。

昌樹さんは小さいころから農作業を手伝っていたが、「農業は自分でやりたいことができる。こんなに面白い仕事はない」と決心して大学農学部を卒業後、すぐに就農した。就農当初は父親の指導も受けたが、自分の思うようにやりたいとの意思が強く、幅広い技術や知識を身に付けようと地域内はもとより、府内、他府県のベテラン農家へも足を運んで品目ごとの栽培方法を学んだ。

地域の農地を借りて経営規模を徐々に拡大してきたが、経営の継承と一層の規模拡大のための基盤づくりを目的に、2013年7月に法人化した。

昌樹さんの他、父の朋和さん(62)が専務取締役、母のはるよさん、妻の愛さんが取締役となり、地域から正社員4人、パートタイマー20人を雇用する。

現在、経営面積は7畝、主力の「九条ねぎ」は2畝で周年栽培する。また冬ホウレンソウ1畝、ハウスでは万願寺とうがらし0・3畝、キュウリ0・3畝、イチゴなど全15品目を野菜類の他、3・5畝で水稲を栽培する。野菜の多くは、JA京都やましろのそれぞれの生産部会を通じて、府南部総合地方卸売市場に出荷している。

(株)渋谷農園

八幡市



「地域農業を盛り上げたい」と話す昌樹さん(右)と妻の愛さん

鮮度売りに規模拡大

苗作りからきめ細かく管理

また、地域の稲刈りやネギ定植などの農作業受託も手掛け、法人としての信頼を深めている。

同社の強みは、都市近郊の条件を生かし、鮮度を維持して安定供給できる生産体制だ。多数のパートを使い、早朝から朝8時ごろまでの涼しい時間に収穫した野菜を、その日のうちに出荷することを徹底する。また、苗作りから収穫まできめ細かい栽培管理を行い、規格外の発生をなくすことで廃棄ロスを極小とするための努力を怠らない。

昌樹さんは「今後、季節ごとに旬の品目を取りそろえ、地域の飲食店などへ販売していきたい。法人は地域との調和が欠かせない。次世代へ技術やノウハウを伝承して、みんなが地域農業を盛り上げていきたい」と話す。

▽法人所在地 八幡市野尻土井ノ内12。